

平成28年度第1回奈良市社会教育推進懇話会の意見の概要

開催日時	平成28年10月24日（月）午後2時から午後4時30分 まで
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）奈良市社会教育推進計画（案）の策定について ・奈良市の社会教育関係事業について ・計画の施策体系（案）について
参加者	出席者7人 ・ 事務局6人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	教育総務部生涯学習課

意見等の内容の取り纏め

座長には岡田氏が選出され、奈良市社会教育推進懇話会運営要領を決定した。
事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

1 （仮称）奈良市社会教育推進計画（案）の策定について

- ・（仮称）奈良市社会教育推進計画の策定に関し、策定までのスケジュールや計画の位置付け等の計画の概要について説明を行った。

【意見等】

- ・奈良市教育振興基本計画（平成28年1月策定）の中では、社会教育についてふれられているのか。
→社会教育に関してはあまりふれられていない。
- ・計画の名称については、今後内容に伴って検討していくということだが、社会教育推進計画という名称は漢字が並んでいて重たいイメージがあるので、市民が計画の中身を想像できるやわらかい言葉で表現した計画名がいいのではとの意見があった。
→名称については、他市の状況をみると「生涯学習」という言葉を使っているところが多く、「社会教育」という言葉を使っている自治体もある。名称については、意見も踏まえ、今後検討していきたい考えを示した。
- ・奈良市教育振興基本計画は、奈良市の教育に関する基本計画であるならば、社会教育の内容も書いてほしかった。社会教育をアピールしたいと言っていたが、まずは行政の中でアピールする必要があるのではとの意見があった。
- ・計画を一番使われると思われる対象は誰なのか。

(質問に対し、以下のような議論が行われた。)

- 奈良市で社会教育に携わる方々、社会教育関係団体が考えられる。あとは、奈良市の行政の中でのアピールになる。
- 昨年度に市がつくられた「社会教育目標」のパンフレットは、市内の主だったところに掲示されたが、最も目にし、行動するのは学校ではないか。学校教育は欠かせないものではないか。
- 現場からの意見としては、行政がつくる計画をみて、自分たちが行おうと思っている事業と関わりのある政策を探し、協働できるものがあれば行政に声掛けしていく参考に計画を使うと思う。

2 奈良市の社会教育関係事業について

- ・奈良市で行っている社会教育関係事業について、事務局より説明を行った。

【意見等】

- ・我々参加者は、何に関して意見を言えばいいのかを整理して示してほしい。

3 計画の施策体系（案）について

- ・計画の施策体系（案）を示し、説明を行った。

【意見等】

<計画の範囲について>

- ・生涯学習、社会教育は多岐にわたるややこしさ、曖昧さがあるが、そこにこそ生涯学習、社会教育の必要性があると思う。実際計画におとしこんでいくときには、具体的に各事業をどうするか打ち出されると思うが、基本におさえる部分では、いろいろな事業をつなぎながら、他部局との連携を図りながら、生涯学習、社会教育行政が何をしているのかをおさえておくことが大事ではないか。一事業を行えば成功ではなくて、生涯学習、社会教育が目指している価値をおさえておく必要があるのではないか。
- ・計画の射程、範囲がどこまでできるかではなく、その計画を進めていく先は広くとっておく必要があると思う。成人式を例にすれば、教育委員会で行っている事業ではあるが、地元の商店街や他部局と連携を図りながら行っており、それが生涯学習につながっていく射程であるということを言う必要がある。そういう視点で、生涯学習課は今後各事業を行っていくことを宣言する必要がある。他部局に広く社会教育を理解してもらいながら一緒にやっていくからこそ、奈良市の社会教育が発展していく、ひいては各課で行っている事業がここにリンクすることでより効果が上がるということを言う必要がある。
- ・生涯学習、社会教育行政というのは、市民に対し生涯学習、社会教育の機会を提

供することが使命だと思うが、放課後子ども教室は、子どもに対して生涯学習、社会教育の場を提供している事業と言える。しかし、事務局が作成した資料にある「放課後子ども教室」に関する評価は、「地域で決める学校予算事業」と合わせた形で「地域で学校を支援する仕組みは定着してきている」とあり、学校や家庭とは違う居場所として機能している「放課後子ども教室」を「地域で学校を支援すれば成功」という行政の中での価値付け方、位置付け方がどうなのかと思う。市民が自分たちの生活をどう作って守って発展させていくのか、そこに寄与する学びをどう保障するのが大きな役割だと思う。自分たちが考えて学んでいくということを保障するのが、生涯学習や社会教育の領域であると思うので、事務局の説明では学びを5種類に絞っていたが、生涯学習や社会教育が担っているものをどう打ち出していけるのか懸念する。

- ・地域で決める学校予算事業と放課後子ども教室は、もともと国の予算の出所が違うので分かれているが、奈良市としては一体的に進めたいと思っているようだ。また、これらの事業の運営に関わっている方々も同じ方向で進めていこうとしている。

<事務局が提案する5つの学びについて>

- ・便宜上、行政はどこが所管するかということの上で成り立っているが、生涯学習、社会教育に関連する業務は多くの部署にまたがるものである。こういう行政の性質から、まずは自分たちのテリトリーの中でできることから、ある程度射程を見据えておく必要があると思う。事務局の説明にあった5つの「学び」は、なぜ奈良で暮らしている人々が学んだらいいのか、学ぶことでいきいきとした充実した生活が送れるのか、それを説明する見取り図のようなものがあればよいと思う。
 - ・移動図書館や地域の文庫活動などすたれている部分があるので、この計画をきっかけにして、地域での本に関わる活動を次のステップにつなげられるようなことが盛り込めればと思う。
 - ・事務局があげている5つの学びは、市民からのニーズはあるものなのか考える必要がある。また、5つの学びを活性化するにはどう働きかけたらよいのかも考える必要がある。
- 各地域で学びを推進する仕掛け人、コーディネーターが必要であり、その一旦を公民館の職員さんに担ってもらえればと思う。

<基本方針「ひとづくり」と「まちづくり」について>

- ・大きな柱として「ひとづくり」と「まちづくり」をあげているが、そのうち「ひとづくり」は、どういう「ひと」を目指しているのかが分かりにくい。
- 「ひとづくり」は、「人間力の向上」を目指しており、「人間力」は中央教育審議会答申で定義されているように、「社会の変化や要請に対応するために必要な力」であり、このような力を市民が身に付けていくことを支援していきたいと考えている。

- ・事務局の説明では、生涯学習、社会教育は広いので絞ると言っていたが、計画でいう「ひとづくり」はもっと大きく、広いものである。いろいろなところで人間の生きる力は養われている。行政が行う社会教育の事業を通じて、どういう能力を身に付けていってもらえるか、何を期待して施策を展開するかという考え方もある。還元型、社会貢献型の活動ができるような人、地域づくりができるような人が育ってほしいということから、「ひとづくり」ではその辺をいろんな事業でおさえていくという方法もある。
 - ・「まちづくり」のところで「地域」という言葉が出てくるが、この「地域」の捉え方としては、奈良市全体なのか中学校区なのか、イメージを教えてほしい。
- 「地域」をあえて定義していない。それぞれの施策に応じて捉え方は変わると思う。
- ・例えば、課題として「地域のつながり希薄」とあれば、西部地域や東部地域など地域によって希薄度は異なる。「地域」についての考え方を整理する必要があるのではないかとの意見があった。
 - ・エリアの設定はあってもいいのではないか。観光、商業を中心とした中心部などエリアをイメージすることも必要であり、それが「奈良らしさ」にもつながると思う。
 - ・地区公民館は中学校区に一つあるが、どちらかの小学校区に偏って立地しており、立地している小学校区の地域に向けて事業を行っている部分がある。公民館ではいろいろな分野の事業、講座を行っているが、地域によって好みが違うなど、地域差がある。また、地域の方々が自主的に学び、取り組んでいるような成熟した地域と行政が行う事業とがどのように連携していけばよいのかと思う。地域の方々が育ってほしいと働きかけるのではなく、地域の方々が自主的にやっていることを尊重しながら、施策と整合性を持って進めていけるかが大事だと思う。
 - ・「人間力の向上」が上からの感じがするので、違う表現があればいいと思う。例えば、「自己実現の補償」など、一人一人が充足されると他にも意識がいきやすくなるのではないかと思う。
 - ・「ひとづくり」で、人に限定するのではなく、学びでつながっていく資源（自然、人、伝統文化等）を設定し、学びの資源を守っていくようにするという視点（施策の方向性）もある。それが、自己実現、人助けにつながる。
 - ・地域のコミュニティの再構築が求められている中で、どのような資源が必要かという問いに対して、1番に挙げられるのが「神社、伝統行事」で、2番が「小学校」で「公民館」はランク外であった。このような地域にある資源が中心になって展開していくことが重要ではないかと思う。
 - ・公民館が地域コミュニティの中心になることが望ましい。ただ、指定管理に出している社会教育施設を行政がどこまで方向付けられるかが問題である。
- 指定管理においては、指定管理者との契約書や仕様書の中に、運営の方針について書き、ある程度方向付けを行うことができる。これからつくる計画は、所管す

る公共施設の運営の方向性の根本となるようにしていきたい。

- ・受託者と委託者で一年を振り返り成果や課題を検証し、次年度の管理につなげていくというような共に築きあげていくパートナーシップが必要である。

<その他>

- ・事業はやりっぱなしにならずに、事業が終わった後に、その事業の課題等を検証し、次につなげていくことが重要である。計画に入れる各施策においても、計画が目指している方向性にあてはまっているのか等、各事業の実施後に成果や課題等について検証するステップを設ける必要があると思う。

→計画はつくりっぱなしではなく、数値目標等の指標を設け、策定後はPDCAサイクルで進捗管理を行い、見直しをかけていく予定である。

- ・「学校教育」対「社会教育」という考え方が気になる。学校教育を包括する形で社会教育があると思う。

4 その他

- ・参加者より、計画の内容を検討するに際し、これから奈良を支えていく若い世代（中学生や高校生、大学生等）からの意見を聞いてみてはどうかという意見があった。また、奈良市で行っている「子ども会議」での意見も聞いてみたいという意見もあった。

→事務局で、若い世代を集め、意見を聞く場を設定することとなった。

→「子ども会議」で出された意見があるので、次回資料として見ていただくこととなった。